

<第100回調査>

2017年9月25日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2017年9月12日(火)13:00~2017年9月19日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は665件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

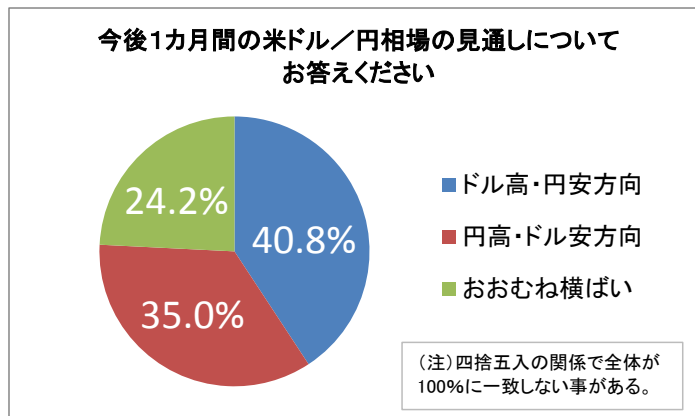
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第100回調査結果略報：ユーロ/円予想DI、4年ぶりの強気見通し】

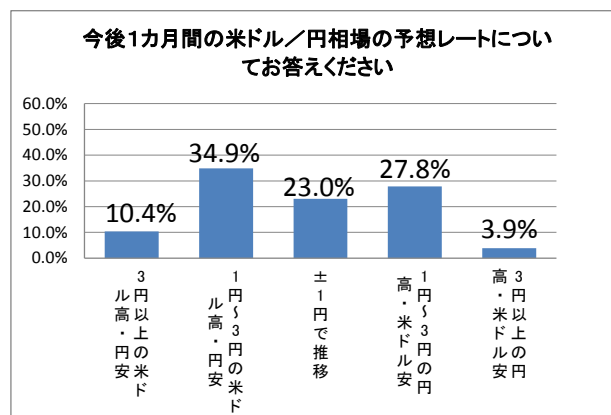
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が45.5%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は32.0%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△5.8%ポイントとなり前回に続き「強気」を示すプラス圏を維持したが、「強気度合い」を示すプラス幅は縮小(前回：△13.5%ポイント)した。調査期間中の米ドル/円相場は、北朝鮮リスクなどを背景に107円台に差し込んだ前週の反動もあって、109円台から111円台へ、ほぼ右肩上がりで上昇した。それでもFX個人投資家の見通しが割れているのは、こうした動きが自律反発に過ぎないのか、あるいは本格反騰の兆候なのかについて見定めきれないためだろう。※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が34.9%と最も多く、「1円～3円の円高・米ドル安(27.8%)」、「±1円で推移(23.0%)」と続き、以下「3円以上の米ドル高・円安(10.4%)」、「3円以上の円高・米ドル安(3.9%)」の順になった。ヒストグラムの形状は、米ドル高・円安方向にやや傾いており、全体として見れば強気予想が僅かに優勢という問1の結果と整合的だろう。また、前回に続き「±1円で推移」の割合が低く、相場水準が現状付近に留まるとの見方は少ないのが特徴的だ。米ドル/円相場が、どちらかに(どちらに動くかは見通しが割れる)大きく動く可能性があると感じている投資家が多いという事になる。



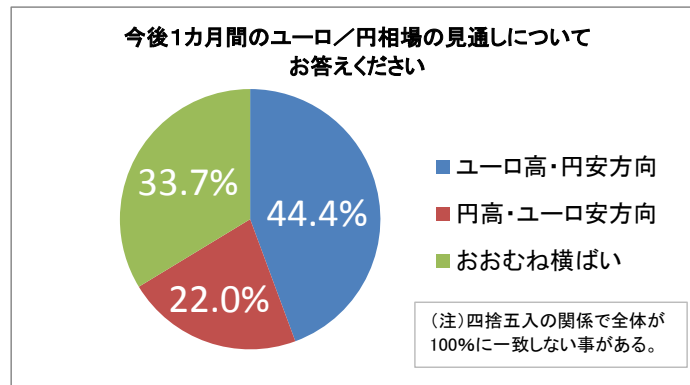
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が44.4%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が22.0%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は $\Delta 22.4\%$ ポイントと、前回($\Delta 18.5\%$ ポイント)から上昇して、2013年12月の第55回調査以来となる高水準を記録した。調査期間中のユーロ/円は、130円台から133円台へと上昇した。引き続き、買い材料は欧州中銀(ECB)による金融政策の正常化観測であり、大規模緩和を維持する日銀との「政策コントラスト」が個人投資家のユーロ強気・円弱気予想を強めているものと考えられる。

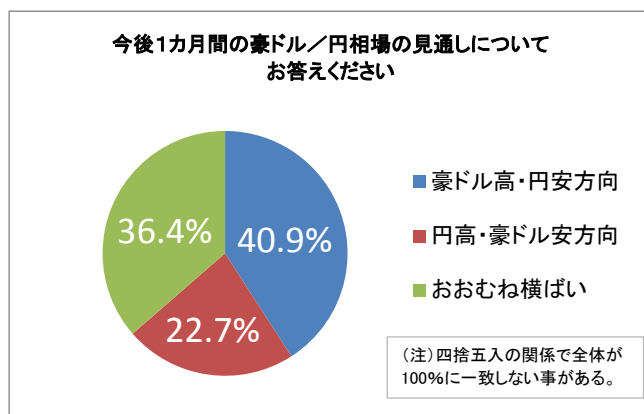
※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が40.9%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は22.7%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は $\Delta 18.2\%$ ポイントとなり、前回($\Delta 9.4\%$ ポイント)から上昇。5カ月連続でプラス圏を維持した。調査期間中の豪ドル/円相場は、北朝鮮リスクに対する警戒ムードが緩和した事などから、87円台から89円台へと上昇。そうした市場環境の改善に加え、豪8月雇用統計がすこぶる良好であった事も、豪ドル高とともに個人投資家の強気見通しを助長したと考えられる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



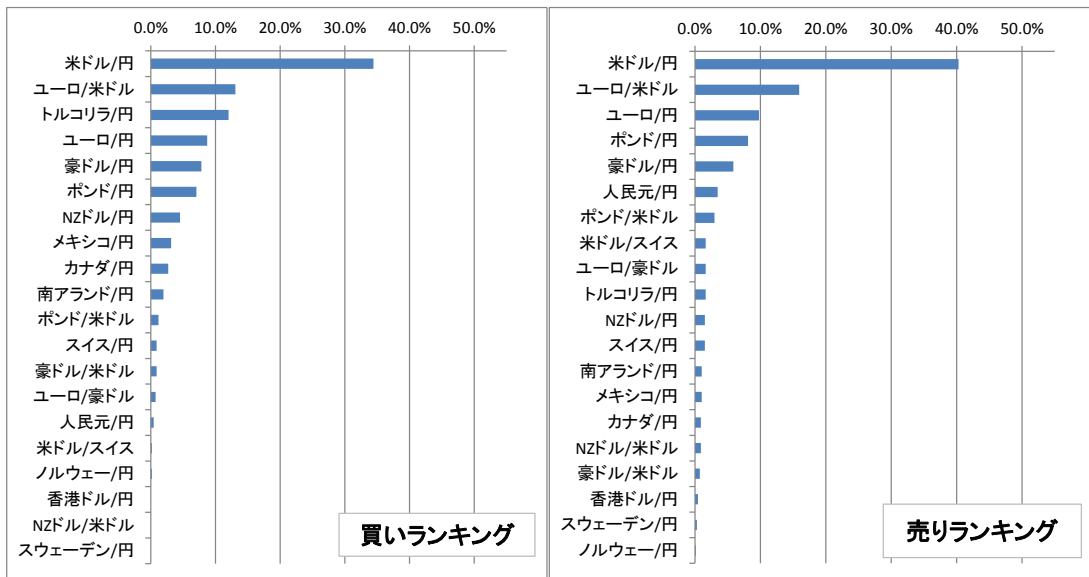
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が34.4%の回答割合を集めて1位であった。以下、ユーロ/米ドル(13.1%)、トルコリラ/円(12.0%)、ユーロ/円(8.7%)、豪ドル/円(7.8%)、の順に続いた。米ドル/円が連続首位記録を60カ月に伸ばした。米ドル/円は5年間に渡り1位の座に君臨しており、まさに「絶対王者」の様相だ。また、ユーロ/ドルも6カ月連続で2位をキープした。豪ドル/円とユーロ/円が、それぞれ前回の4位と5位から入れ替わった以外に目立った変動はなかった。

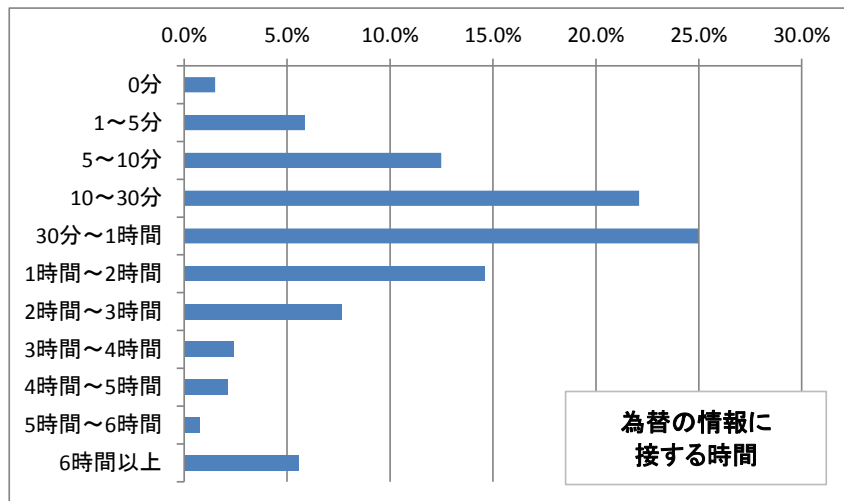
一方、「売り」で注目の通貨ペアは米ドル/円が40.3%の回答割合を集めて11カ月連続で首位をキープした。以下、ユーロ/米ドル(15.9%)、ユーロ/円(9.8%)、ポンド/円(8.1%)、豪ドル/円(5.9%)の順に続いた。こちらは順位に変動がなく、回答割合にも大きな変化はなかった。なお、米ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は、いずれも「買い」で注目の割合を「売り」で注目の割合が上回っており、問1および問3、問4でそれぞれの予想DIがプラス(強気)であった事と整合的とは言えない回答結果となっている。「売り」で注目のペアについては特に、普段から相場をウォッチしているメジャーなペアに票が集中しやすい(マイナーペアには売りで注目しにくい)という事情があるのだろう。また、問1、問3、問4の回答形式が「ひとつだけ」を選択するのに対して、本問は「複数回答可」である事にも原因があると考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

問6: 一日当たり、為替に関する情報に接している時間はどれくらいですか？(ひとつだけ)

今回の特別質問として、「一日当たり、為替に関する情報に接している時間はどれくらいですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「30分～1時間」が25.0%と最も多かった。以下、「10～30分(22.1%)」、「1～2時間(14.6%)」、「5～10分(12.5%)」、「2～3時間(7.7%)」、「1～5分(5.9%)」と続いた。また、「6時間以上」との回答も5.6%に上った。昨年の同時期に同じ質問をした際と、回答割合や順位は概ね同様であり、個人投資家が為替情報の収集に費やす時間は以前から大きく変わっていない事がわかった。この1年間は、トランプ米大統領の誕生(2016年11月の大統領選を経て2017年1月に就任)や、米連邦公開市場委員会(FOMC)による利上げ再開(2016年12月、2017年3月、2017年6月にそれぞれ0.25%利上げ)のほか、無所属候補のマクロン氏が極右候補のルペン氏を破った仏大統領選(2017年4月-5月)など、金融市場の注目を集めるイベントが多かったが、個人投資家の関心を強く惹きつけるほどではなかったようだ。なお、今回は1.1%の回答者が「0分」と答えている。

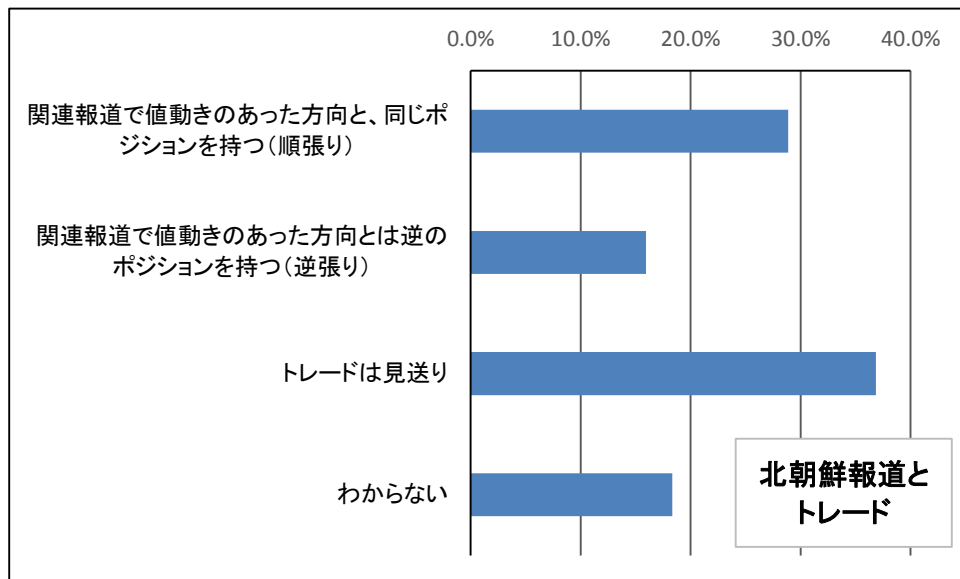


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7: 北朝鮮の一連の行動で為替相場が変化していますが、ご自身のトレード判断にどのように影響していますか(ひとつだけ)

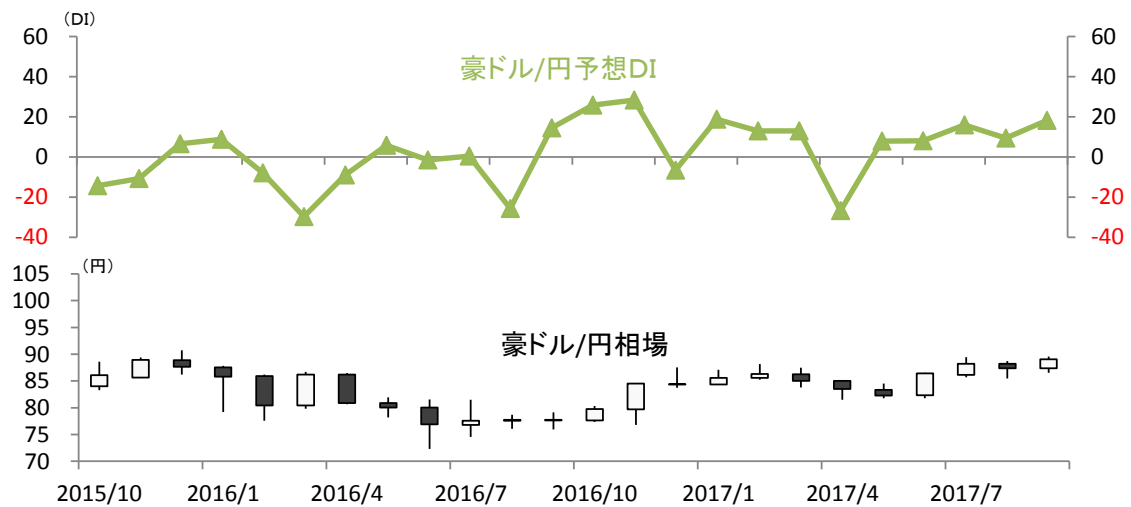
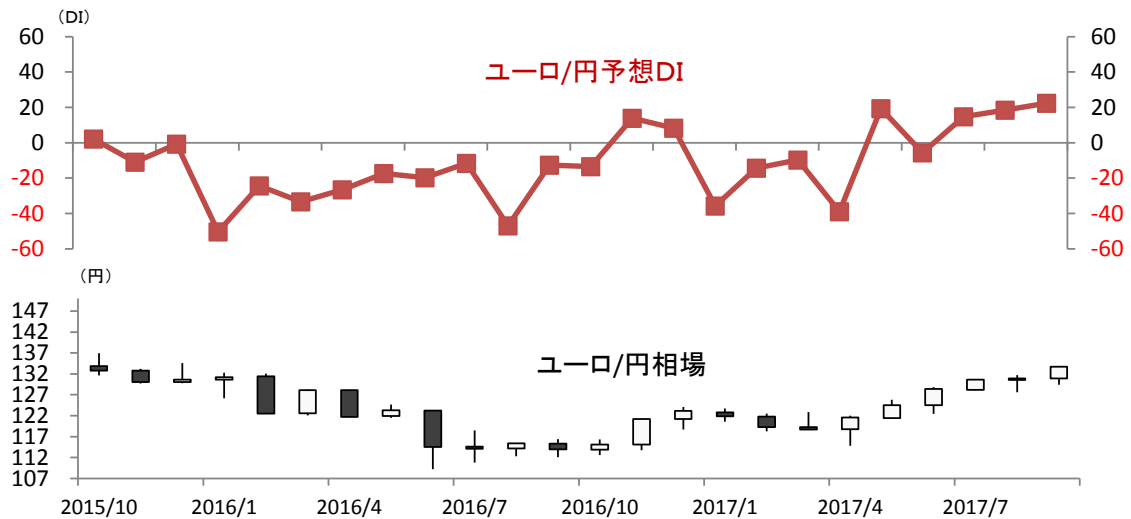
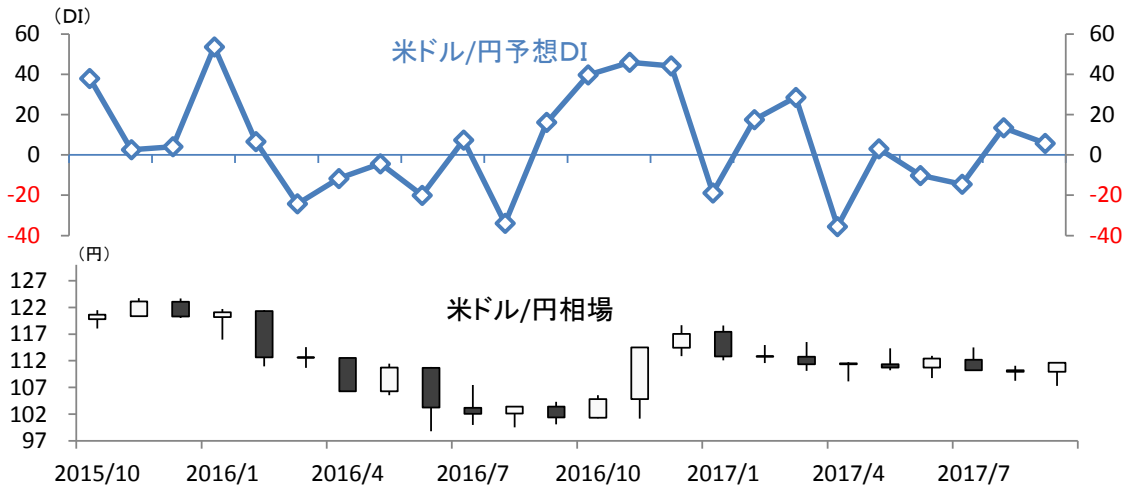
今回のもうひとつの特別質問として、「北朝鮮の一連の行動で為替相場が変化していますが、ご自身のトレード判断にどのように影響していますか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「トレードは見送り」が36.8%と最も多く、以下「関連報道で値動きのあった方向と、同じポジションを持つ(順張り)」が28.9%、「わからない」が18.3%、「関連報道で値動きのあった方向とは逆のポジションを持つ(逆張り)」が15.9%で最も少なかった。北朝鮮リスクが「円買い要因」か「円売り要因」かを巡り各所で論争となる中、個人投資家の回答が「順張り」優勢であった点は興味深い。それぞれの回答理由などを自由記述形式で尋ねたところ、「関連報道で値動きのあった方向と、同じポジションを持つ(順張り)」とした向きからは、「リスク・オフの円買い」や「リスク・オンの円売り」の流れに乗るのが重要との声が上がっていた。現時点では、北朝鮮リスク＝円買い要因との市場の解釈に、個人投資家が強い違和感を感じていないと解釈できそうだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査もついに第100回目を迎えました。調査開始から8年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2015年	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8
	12月	64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4
2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5	-6.6
	2月	46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8
	3月	53.3	24.7	28.6	27.6	37.4	-9.8	36.1	23.1	13.0
	4月	21.6	51.7	-35.5	17.7	56.6	-38.9	19.6	46.4	-26.8
	5月	38.4	35.3	3.1	45.9	26.5	19.4	34.9	27.0	7.9
	6月	33.3	43.4	-10.1	31.5	37.1	-5.6	33.7	25.7	8.0
	7月	30.7	45.2	-14.5	42.4	27.6	14.8	42.8	26.9	15.9
	8月	45.5	32.0	13.5	43.8	25.3	18.5	37.3	27.9	9.4
	9月	40.8	35.0	5.8	44.4	22.0	22.4	40.9	22.7	18.2

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com